

2015.3 vol.27
tag
たぐ

多賀城発で多賀城着。ヒト・コト・モノを届けます。
「tag」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援する月刊フリーペーパーです。



プレーパークで のびのびあそぼう!

プレーパークとは、自分の責任で自由に遊ぶ場です。自然の中で遊びまわることによって五感が刺激され、豊かな感性が育まれます。遊具が用意されているわけではなく、子どもたちが工夫して自ら遊びを生み出します。今回は、子どもたちのために地元にプレーパークをつくろうと活動する多賀城プレーパークの会にお話を伺いました。

自然の中で
遊ぶのは
気持ちいいね

自分で
作れて
楽しい!

代表の八嶋美由紀さんは、子どもと公園で遊んでいても、禁止事項が多かったり、親子だけの関わりになってしまったりと窮屈さを感じていました。

「子どもが歩いて行ける自由な遊び場があったらいいな。」「多賀城の子どもたちが無邪気に元気に遊んで笑ってほしい。」「子どもの頃、外で思いっきり遊べる場所がなかった。今の、そして未来の子どもたちに同じ思いはさせたくない。」さまざまな想いを持ったお母さん、お父さん、学生たちがつながり、多賀城にプレーパークをつくる活動がはじまりました。

昨年開催した第1回目は、子ども、お母さん、お父さんたちの笑顔があふれ、たくさんの人にプレーパークを知ってもらうことができました。将来、イベントとしてではなく、常に子どもたちが自由に遊べる環境をつくることを目指しています。

まずは知ることから

こんにちは! プレーパークです。写真展

期間: 2015年4月13日(月)~18日(土)
時間: 午前9時~午後9時30分
場所: 多賀城市市民活動サポートセンター
3F フリースペース

【多賀城プレーパークの会 連絡先: 090-2882-0731 担当: 山田】

第2回

多賀城プレーパーク

日にち: 2015年4月26日(日)
時間: 午前10時~午後3時
場所: 緩衝緑地芝生公園

多賀城にこんな広い
ところがあったんだ!



ヒント from “たがさぽPress”

たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● 「遠距離介護」のお手伝い NPO法人バオッコ 2015年 2月19日(木) 掲載
離れて暮らす親のケアを行う「遠距離介護」。子の世代に向けた情報発信や情報交換の場の提供などで応援する、NPO法人バオッコの活動をご紹介します。

● 地域を歩いてオリジナル防災マップをつくろう 2015年 2月5日(木) 掲載
約60以上の町内会や学校・NPOがそれぞれのまちを歩き、話し合っ作った防災マップ。災害時に役立つ情報だけでなく、まちの魅力も伝えています。

● 課題に悩むNPO必見! 「困ったときのゲンバの知恵袋」 2015年2月3日(火) 掲載
課題に直面したNPO・市民活動団体の皆さんは必見! 解決のヒントとなる、ノウハウや事例が分かりやすく紹介されています。

“たがさぽPress”とは?

たがさぽスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぽPressへ! *ケータイ、スマホからもご覧いただけます。



たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

地域の情報が集まっています!

たがさぽには、NPO、町内会、サークル、地域のイベントなどの情報があります。「最近多賀城に引越して来たのだけど、どんなイベントや活動があるのか知りたい」「町内会の役員になったのだけど他の地域でどんなことをしているのか参考にしたい」「春だし何か新しいことをはじめたい」そんな方に役立つ情報をそろえています。ぜひたがさぽに足を運んでみてください。



地域情報なら
たがさぽへ!

東日本大震災から見た ボランティアに求められる役割

震災から4年が経過し、被災地の状況の変化に伴い、支援団体の活動にも変化が見られます。今回は、震災直後から多賀城市を中心に復興活動に取り組む「多賀城災害ボランティアネットワーク」にお話を伺いました。

—震災直後とくらべて被災者のニーズや活動内容はどう変わりましたか？

仮設住宅入居当初は、呼び鈴がほしい、プレハブなので寒い、といった建物に対しての要望が多かったのですが、だんだんと引越しやこれからの生活に対する不安をよく聞くようになりました。なので、活動内容も建物に関するものよりも、仮設住宅から引越す方の手伝い、仮設住宅以外での被災地域の住民のつながりづくりを目的とした地域サロン（多賀城市社協復興支えあいセンターと協力して実施）といった活動が増えていきました。

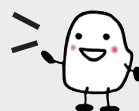
—活動の中で現在感じている課題は何ですか？

どこまで私たちがやるべきなのか、あまりやりすぎるのもよくないのではないかと、ということは活動をはじめたころから考えていました。たとえば、家の片付けや引越しで、依頼主がネットワークのメンバーより若かったり、ボランティアの手がなくても充分出来るような依頼もありました。こうしたものも私たちがやってしまうことで、支援どころか自律を妨げてしまう恐れもあります。私たちは業者や人材派遣会社ではないので、どこまで支援するか見極めなければなりません。

—今後、どのような活動をしますか？

生活、人のつながり、心のケア、インフラや制度の整備など必要なことはたくさんあります。しかし、私たちの手が必要とされる時期は過ぎました。もともと、ネットワークは「何かあった時に出来る人が出来ることをするための連絡網」としてつくったものです。今後も、何かニーズが生じた時にはその都度柔軟に伝えていきますが、むしろ、これからは次に災害が起こった時、いかにこれまで築いたノウハウとネットワークを生かすかが重要です。私たちは、被災者支援の他に、次の災害に備えて救命救急やロープワークの講習、炊き出し訓練などを行っています。ボランティア募集がすぐに終わってしまったので実現はしなかったのですが、昨年の山形県豪雨災害でも支援に行く態勢を整えていました。今後も、そもそも何のために活動をはじめたのか、何が防災や被災者支援に本当に必要なのかを大切にしながら活動していきます。

今後に備える
ことも大事だね



救命救急演習の様子

多賀城災害ボランティアネットワーク

震災直後、被災家屋の片付けなどを行っていたボランティア同士で築いたネットワーク。多賀城や周辺地域に住む20代～60代の20名が参加し、それぞれの特技を生かして活動しています。現在は、被災地域住民のつながりづくりを目的としたサロン活動や引越し支援、災害救援の演習などを行っています。

E-mail : tagajo.vnet@gmail.com



「tag」には、多賀城（tagajo）の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ（価値）をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやります。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>